

第五十六回帝國議會  
衆議院

# 國寶保存法案委員會會議錄(速記)第二回

付託議案

國寶保存法案(政府提出)

## 會議

昭和四年二月二十一日(木曜日)午前十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 山下 谷次君

理事 松尾 四郎君

理事 眞鍋 勝君

伊藤仁太郎君 富田 八郎君

福井 甚三君 川崎 克君

村松恒一郎君 椎尾 辨匡君

同日委員川崎安之助君辭任ニ付其ノ補

闕トシテ川崎克君ヲ議長ニ於テ選定セ

リ

出席政府委員左ノ如シ

文部政務次官 山崎達之輔君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ

如シ

文部省囑託 荻野仲三郎君

文部省囑託 關野 貞君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

國寶保存法案(政府提出)

○山下委員長 ソレデハ是カラ國寶保

存法案ノ委員會ヲ開キマス、先ヅ例ニ

依リマシテ政府委員ノ説明ヲ御願シテ

ハ如何カト思ヒマス、御異議ゴザイマ

セヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○山下委員長 ソレデハドウゾ——山

崎政府委員

○山崎政府委員 今回從來ノ古社寺保

存法ヲ廢シマシテ、國寶保存法ヲ制定

致スコトヲ提案致シタ譯デアリマス

ガ、提案ノ大體ノ趣旨ハ先日議場ニ於

テ文部大臣ヨリ申上ゲマシタ通りデア

リマス、即チ從來ハ古社寺保存法ニ規

定ヲ致シテ居リマスル社寺所有ノ、物

件ダケニ付テノ保存規定デアッタ譯デ

アリマス、尙又從來ノ古社寺保存法ハ

三十年前ニ制定セラレマシタモノデア

リマシテ、色々不備ノ點モアリマスル

ノデ、旁今回全部改正ヲ試ミタ譯デ

アリマス、其從來ノ規定ト、今回ノ國寶

保存法トノ違ッテ居リマスル要點ダケ

ヲ簡單ニ申上ゲマスレバ、第一ハ從來

ハ保護建造物ト國寶ト云フモノヲ別々

ニ區分ヲ致シテ居リマシタガ、今回ハ

兩者ヲ打ッテ一丸トシマシテ、總テ國寶

ト云フコトニシテ扱ヲシタイ、ソレ

カラ従前ハ先刻申上ゲマシタ通り、社

寺有ノ物件ダケヲ國寶ト致シテ居リマ

シタガ、今回ハ個人公共團體及國有

ノ建物、寶物其他ノ物件モ特ニ歴史ノ

證據トナリ、或ハ美術ノ模範トナルベ

キモノハ國寶トナシ得ルト云フ範圍ヲ

擴張致シタ譯デアリマス、ソレカラ第

三ハ國寶ハ個人所有ノ物ト雖モ原則ト

シテ輸出移出ヲ禁ズルト云フコトニ致

シタノデアリマス、ソレカラ最モ大キ

ナ改正ト見ルベキモノデアリマスルノ

ハ、從來國寶保存ノ爲ニ出シテ居リマ

シタ費用ガ、保存法ニ依テ年額十五萬

乃至二十萬圓ト云フコトニ相成ッテ居

リマス、所ガ此二十萬圓位ノ國庫支出

金ヲ以テ致シマシテハ、大切ナル保護

建造物或ハ國寶類ノ保存上非常ナ遺憾

ヲ感ジマスノデ、ドウシテモ政府カラ

出シマス支出金ノ額ヲ増加スルコトガ

必要デアルト思フノデアリマス、其意

味ニ於テ昭和四年度ノ豫算ニ於テハ、經

常費ノ外ニ臨時費トシテ特ニ二十五萬

圓ヲ支出致シテ居リヤウナ次第デアリ

マス、此點ニ於テドウシテモ法律ノ改

正ガ必要デアリマス、即チ今回ハ經常

ノ支出額ハ從來ノ儘ト致シテ置キマシ

テ、其他ニ臨時ノ支出ヲ爲シ得ルト云

フ途ヲ法律ノ表面ニ於テ加ヘテ置キタ

イ、斯ウ云フ點ガ實質的ノ最モ大キナ

改正デアアルノデアリマス、其他罰則ナ

ドモ多少整理按配ヲ加ヘタヤウナ點モ

アリマスガ、大體大キナ改正ノ要點ハ、

以上申上ゲタヤウナ諸點デアリマスカ

ラ、ドウカ十分御審議ヲ御願致シタイ

ノデアリマス、尙此機會ニ委員長ノ御許

ヲ願ッテ置キタイト思ヒマスノハ、何分

此問題ハ私共素人デハ洵ニ御満足ナ御

答ヲ致シ兼ねル點ガ殆ド全部デアリマ

スノデ、願クバ、專門家ヲ二人帶同致シ

テ參リマシタカラ、即チ古社寺保存會

委員ノ荻野仲三郎君ト關野貞君、此兩君

ヲ煩シテ參リマシタカラ、説明委員ト

シテ便宜御説明ヲ申上ゲルコトヲ御

認ヲ願ッテ置キタイト思フノデアリマ

ス

○山下委員長 御諮リ致シマスガ、説

明委員トシテ荻野君外御一名ガ見エマ

スガ、是ハ御差支アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○山下委員長 ソレデハ質問ノ通告ガ

ゴザイマスカラ、其順序ニ依リマシテ

之ヲ許シマス

○川崎委員 一寸委員長、議事進行デ

申上ゲタイ、ソレハ書類ヲ少シ御提出ヲ

願ヒタイト思ヒマス、ソレデ從來ノ國

法ニ依テ國寶トセラレテ居ル中デ、彫

刻、工藝品、繪畫、其他凡ソ此四ツ位ニ

分類ガ出來ルダラウト思ヒマスカラ、

其全部ヲ御出シ願ヘレバ洵ニ結構デス

ガ、出來ナケレバ主ナルモノデモ結構

デスガ、大體數字デナクシテ御出シヲ

願ヘヌカト思ヒマス、是ハ點數ニシテ

三千點内外ノモノダラウト思ヒマス、

出來レバ御出シヲ願ヒタイ、非常ニ御

面倒デアレバ主ナルモノデモ結構デア

リマス、ソレカラ保護建造物ノ主ナル

モノソレヲ要求致シマス

○山下委員長 宜シウゴザイマス、ド

ウヅソレデハ御願致シマス

○椎尾委員 少シ御尋致シタイコトガゴザイマスガ、今回改正ニナリマス個人所有ノ物ヲ國寶ニ扱フト云フコトハ、主トシテ個人ノ方ノ申請、請求ヲ主トセラレルノデアアルカ、勿論國家トシテ保存ノ必要ヲ認メマスル事デアアルカ、指定スルコトモ當然ト思ヒマスケレドモ、多數アリマスル民間ノ國寶的財物ヲ、漏レナク其價值アルモノヲ指定スルト云フコトガ主デアアルカ、或ハ其所有者ノ申請ニ依テヤルト云フコトガ主デアアルカ、主點ヲ何處ニ置カレマスカ先ヅ第一ニ其點ヲ伺ヒタイ

○山崎政府委員 個人所有ノ物ニ付キマシテハ個人ヨリ申請ヲ待ツテヤル場合モアリマセウシ、或ハコチラカラ政府ノ方ガ發動的ニ指定スル場合合モ、双方アリ得ル譯デアリマス、而シテ之ヲ選定致シマスルコトハ、餘程優秀ノ特殊ノモノニ限ル考デアリマシテ、之ヲ極端ナ言葉ヲ以テ致シマシバ、濫ニスルト云フヤウナコトハ絕對ニ慎ミタイ、餘程國寶トシテ優秀ナル、是非トモ國家トシテ保存ヲ要スルト云フヤウナ、極メテ狭イ範圍ノモノニ限リタイト云フ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス

○椎尾委員 大體ノ御趣旨ヲ諒トシマスガ、社寺等ノ寶物ハ、勿論之ヲ嚴ニ保存スルト云フコトハ第一要件デアリマスカラ片ツ端カラヤッテモ宜イノデア

リマスガ、個人ノ所有ハ國內ニ於ケル賣買讓渡ヲ承認シテアリマスカラ、一面カラハ其價值ヲ高メルト共ニ、他面ニハ各人ノ自由ト其價值ノ——値段ノ上ルト云フヤウナコトヲ妨ゲテ、個人ノ私有財産權ニ餘程障礙ヲ與ヘル點ガアルト思フノデアリマスカラ、其限度ヲ成ベク明瞭ニサレタイモノデアアルト云フコトヲ願ツテ置キマス、ソレカラ次ニハ今ノ實際上ノ取扱事實ニ付キ參考ノ爲伺ヒタイノデアリマスガ、現在ノ古社寺保存會デ今マデヤラレマシタ大體ノ最近ノ取扱ノ件數ハ、一箇年間ニ凡ソ其要求調査ノ總數ニ對シテドレ程ノ割合デ、國寶ニ保存スベキモノト認メラレルコトニナツテ増加シツ、アルノデアアルカ幾分ノコトハ承知シテ居リマ

スガ、最近ノ統計的ノ數ヲ伺ヒタイ、ソレカラ少クトモ斯様ナ新シキ制度ヲ立テラレマスルニ付、民間ノ取敢ヘズセネバナラヌト著眼ヲセラレマシタルモノヲ統計的ニ見テ、ドノ位ノ點數ヲ必要ナリト認メラレテ居ルノデアリマスカ、サウ云フ統計的ノ點數ヲ豫メ承リタイノデアリマス、最近ノ凡ソノ點數ヲ承リタイノデアリマス

○山崎政府委員 最近ニ指定ヲ致シマシタ——又件數ヲ前カラ分ツテ居リマスガ、最近五六年ノ分ヲ申上ゲテ御參考ニ供シタイと思ヒマス、大正九年以後ヲ申上ゲテ見マスルト、大正九年ニ建物ニ於テ十七棟、ソレカラ物件ノ指

定ガ五十八デアリマス、ソレカラ大正十年ニ建物十六、物件六十六、大正十一年ニ、矢張建物十六、物件七十二、大正十二年ガ建物二十、物件六十四、大正十三年建物十九、物件四十二、大正十四年建物十一、物件六十五、昭和元年建物十、物件八十一、昭和二年建物九、物件六十一、昭和三年建物六、物件四十八、マア大體斯ウ云フヤウナ情勢デ、毎年度嚴重ナル審査ノ上デ、保存委員會ニ於テ指定ヲ決定致シテ參ッタノデアリマス、個人所有ノコトハ説明委員ノ方カラ申上ゲマス

○荻野文部省囑託 個人所有ノ物ハ只今申上ゲマスルガ、所謂寶物ノ方ダケヲ茲ニ申上ゲテ見マスルト、御承知ノ繪畫、彫刻、刀劍、書籍、古文書、ソレカラ美術工藝ニ互ルモノデアリマス、是ハ可ナリノ數ガアリマセウト今豫定シテ居リマス、大體私共ガ將來指定ヲシナケレバナラヌ物ガ、矢張二三千點ニ上ラウト云フ豫想ヲ致シテ居リマス、其外ニモ尙公共團體ニ屬スル物モゴザイマス、是モ今日マデハ指定ヲ致シテ居リマセマスガ、今後ハ新シイ法ニ依リマス指定ヲセラレルコトニナリマス、ソレデ皆サンモ多分御承知デゴザイマセウト思ヒマスガ、其一二ノ例ヲ舉ゲテ見マスルト、大倉男爵ノ持ッテ居リマスル普賢菩薩ノ像、是ハ彫刻デアリマス、ソレカラ男爵益田孝氏ガ所藏シテ居ラレマス定慶作ノ帝釋天ノ像、是モ木像

デアリマス、是ハ先ヅ優秀ナル物デアリマシテ、是マデ國寶ニシテ居リマスル彫刻ト較ベテ見マシテ、可ナリ優等ノ位置ニ參リマス、ソレカラ同ジク益田男爵ノ持ッテ居リマスル過去未來現在因果經ト云フモノガ二卷ゴザイマス、是ハ既ニ指定ヲシテアリマスル京都ノ醍醐寺ノ一經卷ト是ハ同ジ物デアリマス、ソレガ散ラバツテ今益田氏ノ所有ニ歸シテ居ルヤウナ次第デアリマス、是等モ是非第一着ニ指定ヲスベキモノニ屬シテ居リマス、是ト同様一卷ガ又東京美術學校ニ所藏サレテ居リマス、斯ウ云フ風ニ貴重ナルモノガ彼方此方ニ散ラバツテ居リマスノデ、ソレカラ横濱ノ原富太郎氏ガ所藏シテ居ラレマスル孔雀明王ノ像ト云フノガアリマス、是モ非常ナ優秀ナ繪畫デアリマシテ、是迄指定シテ居リマスル同様ノ繪畫中デモ之ニ匹敵スルモノハ僅ニ二、三點ニ過ギナイヤウナ次第デアリマス、ソレカラ毛利公爵御所藏ノ雪舟ノ描キマシタ山水ノ長卷ト普通申シマスル、非常ニ確ナ雪舟ノ是ハ標本トシテ美術ノ模範ニナリマスル非常ナ優秀ナ是ハ傑作デゴザイマス、ソレ等モ矢張指定ヲ要スルモノト心得テ居リマス、ソレカラ尙只今デハ京都ノ博物館ニアリマスル恩賜不動明王菩薩ト云フヤウナモノガ、即チ公共團體ノ所有トシテ指定ヲスベキモノダト心得テ居リマス、尙此外ニモ益田男爵ノ持ッテ居リマ

スル源氏物語ノ繪卷トカ、或ハ尾張ノ  
徳川侯爵家デ所藏シテ居ラレマスル同  
ジク源氏物語ノ繪卷ト云フヤウナモノ  
ガ、最モ是ハ著シイモノデアリマス、若  
モ是ガ社寺ノ所有デアリマシタナラ  
バ、第一着ニ指定セラルベキヤウナ皆  
物件デゴザイマス、斯ウ云フヤウナ種  
類ハ尙諸家ニ所藏セラレテ居リマス、  
其二三ノ例ヲ申上ゲタヤウナ次第デア  
リマスガ、更ニ此外ニモ尙酒井伯爵家ニ  
所藏シテ居リマスル伴大納言ノ繪卷、  
又淺野侯爵家ニ所藏セラレテ居リマス  
ル支那ノ唐宋元明ノ繪畫ノ如キハ、是  
ハ實ニ優秀ナモノデゴザイマス、斯ウ  
云フヤウナモノヲ先ヅ第一着ニ指定ヲ  
スベキモノカト、斯ウ心得ヘテ居リマ  
ス、尙御質問ガゴザイマシタラ御答ヲ  
致シマス

スカ、其賠償金ミタヤウナ性質ヲ持ッテ  
居リマスカラ、是ハ個人所有ノ場合モ  
出スト、斯ウ云フ積リデアリマス  
○椎尾委員 此本年度ノ臨時ノ應急事  
務ハドウデアリマスカ、特ニ此二十五  
萬圓アル中ノ特別ノ保護費ニナリマス  
ル部分ハ、詰リ此様ナ標準デ今後年々  
行カウト云フコトニナルデアリマス  
カ、本年ダケ特別ノ中ニモ特別ナ事由  
ガアツテト云フコトデアリマスカ、是ハ  
私説明ヲ前ニ能ク聽カナカッタデスカ  
ラ……

○山崎政府委員 此二十五萬圓ヲ臨時  
費トシテ出シマシタ根據ハ、大體斯ウ  
云フコトニ致シテ居ルデアリマス、  
隨分此建物——主トシテ建物ガ金ガ餘  
計掛ル譯デアリマスカ、建物ナリ物件  
ナリデ保存修理ヲ要スルコトノ急ヲ告  
ゲテ居ルモノハ、餘程今日澤山アルノ  
デアリマス、文部省デ概略ヲ調べマシ  
タ所デ、先ヅ今後十箇年位ニ修理ヲ加  
ヘナケレバ、殆ド倒潰或ハ廢朽スルト  
云フヤウナ危険ノアルモノガ可ナリノ  
數ニ達シテ居リマス、ソレヲ概算見積  
リマシテ、サウ云フ急ヲ告ゲテ居ルモ  
ノダケハ、成ベクナラバ、其十箇年内位  
ニ相當ノ修理ヲスルト云フ爲ニハ、一  
體ドノ位ノ政府ノ補助金ヲ要スルカト  
云フコトヲ考ヘテ見マシテ、先ヅ四  
百四五十萬圓ノ金ガ必要デアル、デア  
リマスカラ經常費二十萬圓ト、臨時費  
ヲ二十五萬圓、即チ四十五萬圓ニナリ

マスガ、出來得レバ財政ノ事情ガ許シ  
マスレバ、此二十五萬圓ト云フ臨時費  
ハ將來モ成ベク繼續ヲ致シテ行キタイ、  
斯ウ云フ考ヲ持ッテ居ルデアリマス  
○川崎委員 此案ノ出テ參リマシタ根  
據ハ本會議ニ於テ文部大臣ガ御説明ニ  
ナリマシタ如ク、近來日本ノ國寶トモ  
見ルベキ所ノ美術品ガ海外ニ出テ行ク  
虞ガアル、之ヲ防ギタイ、輸出又ハ移出  
ヲ防ギタイト云フ、此第三條ノ趣意ニ  
外ナラヌト思フデアリマスカ、尤  
モ此參考書ニ御配リヲ願ッタ伊太利ノ  
規程ノ如キハ、能ク拜見ハ致シマセヌ  
ガ、最近伊太利ハ之ニ類スル規程ヲ設  
ケテ、美術品ノ移輸出ヲ防イデ居リマ  
ス、之ニ倣ッタモノデアルト存ジマ  
シテ、大體ニ於テ私共モ此趣意ヲ諒  
トスルデアリマスカ、此國寶ヲ決  
メル標準——其國寶ヲ決メル標準ノ  
重點ヲ何處ニ置クカ、是ハ今御説明  
ヲ承ルト、大體二ツノ方針ヲ立テ、  
居ルヤウニ窺ハレルデアリマス、其  
一ツハ美術ノ模範トナル製作品、其一  
ツハ歴史ノ證徴トナルベキモノ、此二  
ツノ柱ヲ立テ、此二ツノ柱ノ中ニ織  
込ンデ行クト、斯ウ云フ趣意デアルヤ  
ウニ私ハ思フ、歴史ノ證徴トナルベキ  
モノハ、美術品トシテノ有價値ナク  
トモ、或ル文獻ニナリ或ハ史料ニナル  
モノヲ保存スルト云フ精神デアリ、一  
方ノ美術ノ模範トナルベキモノハ、所  
謂美術品トシテノ有價値ノモノヲ存ス

ル、又後世ニ遺スニ足ルベキ美術品ヲ  
保護スル、斯ウ云フ精神デアラウト思  
ヒマス、所デ此二ツノ柱ヲ立テ、之  
ヲ保存セラル、ト云フノニハ、之ヲ  
選擇スルニ當ッテノ標準ト云フモノガ  
ナクチャナラヌ、之ヲ決メルコトハ  
實ニムツカシイ問題ダト思ヒマス、言  
フ迄モナク此美術ノ問題ニ付テハ、政  
黨政派モ何モナイ譯デアッテ、人生ハ短  
クシテ美術ハ長シト云フ言葉ニ倣ッテ、  
此室ノ中ハ實ハ春風駘蕩タル心持デ御  
話ヲスルデアリマスカ、私モ忌憚ナ  
ク其事ヲ伺ッテ見タイト思ヒマス、第一  
ニ私ノ最モ疑フ點ハ、ドウ云フ所ニ標  
準ヲ置クカト云フコトガ非常ニムツカ  
シイコトデ、今次官ノ御説明デハ、成ベ  
ク狹イ範圍ト云フコトデアリマシタ  
ガ、私モ其御趣旨ハ御尤ト思ヒマス、唯  
狹イ範圍ニシテ、ソレナラバドレダケ  
完全ニ選擇シ得ベキカト云フコトニナ  
ルト、是亦ムツカシイ問題ダト思ヒマ  
ス、唯共通シタ點ニ於テ、私共避ケナケ  
レバナラヌ一ツノ點ハ、美術ノ模範ト  
ナルベキモノニシテモ、歴史ノ證徴ト  
ナルベキモノニ致シマシテモ、共ニ其  
物ガ眞物デナケレバナラヌト云フコト  
ガ、之ガ兩方ニ共通シタル點デアラウ  
ト思フ、此眞物ヲ保存シナクテハ國寶  
ノ權威ガ無クナッテシマヒマスカ、果シ  
テ其眞物ガ保存サレルカ、又眞物ヲ本  
當ニ眞物トシテ認定スベキカ、是亦非  
常ニムツカシイ問題デアリマス、此例

ヲ強ヒテ申上ゲルコトハ、甚ダ遺憾ナ  
コトデ、此席上デ言フノハドウカト思  
ヒマスガ、是ハ多ク好事家ニハ分ッテ居  
ルコトデ、又説明者モ御承知デアラウ  
ト思ヒマス、今繪畫ノ御話ガアリマシ  
タガ、京都ノ歡喜光寺ニ在ル一遍上人  
ノ繪卷物、是ハ十二卷ニナッテ居リマ  
ス、其中ノ一卷ハ御承知ノ通り寫物デ、  
眞物ハ通レ出テ今原富太郎君ノ手ニ入  
ッテ居リマス、サウシテ寫物ノ一卷ガ  
歡喜光寺ニ殘ッテ國寶トナッテ居ッテ取  
消ニナッテ居ナイト思ヒマスガ、斯ウ云  
フコトガ多ク出テ參ルコト、思ヒマ  
ス、之ヲドウ云フ風ニシテ防グカト云  
フコトガ、非常ニ困難ナ問題ニナルト  
思ヒマス、サウデナケレバ國寶ノ權威  
ガ無クナルト思フノデアリマス、斯ウ  
云フコトニ付テハドウ云フ風ニ御考ナ  
サレマスカ、先ヅ選擇ヲスルニ當ッテ  
ハ、私共ノ考デハ、是ハ説明者ノ如キ其  
方面ニ極ク堪能ナ方ハ結構デアリマス  
ガ、單ニ此御役所ノ人バカリニ頼ラズ  
ニ、今御舉ゲニナリマシタ所藏家ノ中  
デモ、益田孝或ハ原富太郎ト云ッタク  
ナ人ガ、繪畫トカ彫刻トカ或ハ陶磁器  
トカ云フモノニ對シテ、相當見識ヲ持  
ッテ居ルト云フ、斯ウ云フ人ノ意見ヲ徵  
シテ御決メニナラヌト、先ヅ之ヲ決メル  
時ニ於テ正シイ物ガ出テ來ナイデハナ  
イカト思フ、是ハ私一個ノ考デアリマ  
ス、ソレカラ同時ニ所謂贋物ヲ防グニ  
ドウシテ宜イカ、寫物ヲ國寶トスルヤ

ウナコトガアッテハ困ルト思ヒマス、現  
在ドウナッテ居ルカハッキリ分ッテ居ル  
モノハ取消サナケレバ、國寶ノ權威ヲ  
失フコトニナルト思ヒマス、ソコデ此  
眞物ガ海外ニ輸出セラレ贋物ノ寫ガ此  
方ニ殘ルト云フコトガ、是カラ起ッテ來  
ハセヌカ、此法律ハ非常ニ結構デアリ  
マスガ、此法網ヲ潜ッテ眞物ヲ向フヘヤ  
ッテ寫シテ此方ヘ殘スヤウニナリハ  
シナイカト云フコトヲ懸念致シマス、  
サウ云フコトニ付テノ御考ガオアリ  
デアツタラ一ツ伺ッテ見タイト思ヒマ  
ス

○山崎政府委員 第十一條デアリマ  
ス、第十一條ニ「國寶ノ指定解除ヲ爲ス  
コトヲ得」ト云フ箇條ヲ置キマシタノ  
デアリマスカラ、若シ萬々一間違ガ起  
リマスカラ、此箇條ニ依テ  
解除ヲスルヨリ外ハナイ譯デアリマ  
ス、尙御參考迄ニ説明員ヨリ從來ノ取  
扱ニ付キマシテ補足ヲ致スコトニ致シ  
マス

○萩野文部省囑託 申上ゲマスルガ、  
御尋ノ點ハ至極御尤ナコト、思ッテ始  
終ソレハ私共モ注意ヲ致シテ居リマ  
ス、先ヅ其例ニ御引キニナリマシタ歡  
喜光寺ノ一遍上人ノ繪卷物ノ事柄デア  
リマスガ、御説ノ通り一卷ハ寫シデゴ  
ザイマス、アノ場合ハ十二卷纏ッターツ  
ノ繪卷物デアリマスガ、其調書ノ方ニ  
ハ詳シク其事ヲ書イテ居リマス、唯十  
二卷纏ッターツノ繪卷物ト云フモノ、  
寫シテ矢張將來ニ傳ヘタイト思ヒマ  
ス、若シ原富太郎氏ノ所ニ一卷出テ居  
ルノガ、何カノ場合ニ亡失スレバ、其  
一遍上人ノ繪卷物ト云フモノガ全ク傳  
ナイト云フコトニナルト殘念デアアル  
カ、サウ云フ風ニシタイト云フコトデ  
十二卷ヲ纏メテ取ッテ置イタノデアリ  
マス、併シ同ジ價值アルモノトシテハ  
取ッテ居リマセヌ、但シ其中ノ一ツハ寫  
シデアルト云フ斷リヲスレバ宜カッタ  
ノデアリマスガ、ソレヲ當時致サナイ  
デ十二卷ヲ其儘取ッテ、其調書ノ方ニハ  
其事ヲ詳シク書イテ居リマス、實ハソ

レヲ極端ニヤリマシタ滑稽ナ例ガアリ  
マス、奈良ノ東大寺ノ大佛ヲ國寶ニ指  
定致シマシタ時ニ「盧遮那佛一軀但シ  
首ヨリ上ヲ除ク」ト云フコトヲ書イタ  
例ガアリマス、ソレハ東大寺ノ方カラ  
非常ニ信仰ニ關係スルカラ、首ヨリ上  
ヲ除クト云フト云フコトヲ取除イテ貫  
ヒタイト云フヤウナコトデ、只今ハア  
レヲ削除シマシテ、サウシテ「盧遮那佛  
一軀」ニナッテ居リマス、極端ニ申シマ  
スト、サウ云フ滑稽モ起ルヤウナ次第  
デアリマス、丁度今指定會議ヲヤッテ居  
リマスノデ、醍醐寺カラ大元帥法、即チ  
御即位式ノ際ニ修セラル、大元帥法ト  
云フモノニ使ヒマスル大元帥ノ像ガア  
リマス、ソレガ數幅合セテ其法ヲ修ス  
ル畫像ニナッテ居リマス、其中ニハ比較  
的新シイモノガアリマスガ、只今申シ  
マシタ次第デ、一括シテ矢張指定スベ  
キモノデハナイカ、此法ヲ修セラル、  
ニ當ッテ此一幅ガナクナルト云フコト  
ハ非常ニ殘念デアアル、此數幅ノモノヲ  
一括シテ矢張指定スルト云フ、其詳シ  
イコトハ矢張調書ノ方デ年代ヲ明ニシ  
テ補作デアルト云フコトヲ斷ッテ置ク  
ト云フヤウナ次第デアッテ居リマス、ソ  
レカラ個人有ニナリマス、御懸念ノ  
點ハ私共モ初カラ懸念ヲ致シマスガ、  
是ハ商賣人道具屋ノ方ニ餘程用心ヲ致  
シマセヌト云フト、今ノヤウナ虞ガア  
リマス、現ニ私共ガ古社寺ノ調査ニ參  
リマシテモ、箱ト中身トガ違ッテ居ルノ

○山崎政府委員 只今川崎君ノ御心配  
ハ洵ニ御尤ナ御心配デアリマスガ、從  
來京都ノ方ノコトヲ一向存ジマセヌノ  
デ、説明員カラ後デ申上ゲルコトニ致  
シマス、是迄國寶ノ指定ヲ致シマスコ  
トニハ相當慎重ナ手續ヲ執ラセマシ  
テ、決シテ宗教局ノ事務官ナド決定メ  
ルト云フヤウナコトハ致シテ居リマセ  
ヌデ、全ク専門家ノ十分洗練セラレタ  
ル調査ノ結果ニ基イテヤッテ居ルノデ  
アリマス、其間ニ或ハ只今川崎君ノ御  
話ノヤウナ間違ガアツタカモ知レマセ  
ヌガ、唯一點私ハ此處デ申上ゲテ置キ  
タイノハ、從來ノ規定ニハ國寶トシテ  
指定ヲ致シマシテ、其後之ヲ解除スル  
ト云フ途ガナカッタノデアリマスガ、今  
同ハ此解除ノ規定ヲ新ニ設ケルコトニ  
致シマシタ

○川崎委員 何條デゴザイマセウカ  
○山崎政府委員 第十一條デアリマ  
ス、第十一條ニ「國寶ノ指定解除ヲ爲ス  
コトヲ得」ト云フ箇條ヲ置キマシタノ  
デアリマスカラ、若シ萬々一間違ガ起  
リマスカラ、此箇條ニ依テ  
解除ヲスルヨリ外ハナイ譯デアリマ  
ス、尙御參考迄ニ説明員ヨリ從來ノ取  
扱ニ付キマシテ補足ヲ致スコトニ致シ  
マス

○萩野文部省囑託 申上ゲマスルガ、  
御尋ノ點ハ至極御尤ナコト、思ッテ始  
終ソレハ私共モ注意ヲ致シテ居リマ  
ス、先ヅ其例ニ御引キニナリマシタ歡  
喜光寺ノ一遍上人ノ繪卷物ノ事柄デア  
リマスガ、御説ノ通り一卷ハ寫シデゴ  
ザイマス、アノ場合ハ十二卷纏ッターツ  
ノ繪卷物デアリマスガ、其調書ノ方ニ  
ハ詳シク其事ヲ書イテ居リマス、唯十  
二卷纏ッターツノ繪卷物ト云フモノ、  
寫シテ矢張將來ニ傳ヘタイト思ヒマ  
ス、若シ原富太郎氏ノ所ニ一卷出テ居  
ルノガ、何カノ場合ニ亡失スレバ、其  
一遍上人ノ繪卷物ト云フモノガ全ク傳  
ナイト云フコトニナルト殘念デアアル  
カ、サウ云フ風ニシタイト云フコトデ  
十二卷ヲ纏メテ取ッテ置イタノデアリ  
マス、併シ同ジ價值アルモノトシテハ  
取ッテ居リマセヌ、但シ其中ノ一ツハ寫  
シデアルト云フ斷リヲスレバ宜カッタ  
ノデアリマスガ、ソレヲ當時致サナイ  
デ十二卷ヲ其儘取ッテ、其調書ノ方ニハ  
其事ヲ詳シク書イテ居リマス、實ハソ

ヲ澤山見受ケルノデアリマスカラ、ソ  
レハ餘程注意ヲ致サナケレバナラヌト  
存ジテ居リマス

○川崎委員 私共が大變心配シタコト  
ヲ矢張憂ヘテ居ラレルヤウデアリマス  
ガ、此説明ヲ伺ヒマスル順序上、今繪畫  
ノ方ヲ主ニシタト思ハレマスカラ、繪  
畫トソレカラ古墨蹟ト言ッタイウナ方  
面カラ伺ヒタイト思フ、私ハ今御舉ゲ  
ニナリマシタ繪畫ノ中デモ、淺野家ノ  
所有シテ居ル元明ノ繪畫デアルトカ、  
主ニ支那方面カラ來タ所ノモノハ、是  
ハ美術ノ模範トナルベキモノニハ相違  
アリマセヌガ、私共ノ考デハ成タケ  
國粹保存ト云フカ、國民的美術ノ普及  
進歩ヲ促スト云フカ、兎ニ角日本ニ取  
入レラレタ繪畫ニ付キマシテモ、陶器  
ニ付キマシテモ、或ハ彫刻ニシマシテ  
モ、日本人ガ色々ナ方面カラ取入レタ  
知識ヲ渾然融和シテ、之ヲ日本のノモ  
トシテ、サウシテ現ハシタ美術、サウ  
言ッタ日本固有ノ美術ニ對シテハ、特ニ  
保護ノ精神ヲ加ヘ、サウシテソレヲ國  
寶ニスル必要ガアルト思フ、其精神ハ  
一ツ大體ノ觀念ノ上ニ於テ重キヲ置イ  
テ戴キタイコトデハナイカト思ヒマス  
ガ、如何デアリマセウカ

○山下委員長 一寸川崎君ニ御願致シ  
テ置キマスガ、此委員會ハ黨派ノ關係  
ガナク、實ニ春風駘蕩ノ委員會デアリ  
マスルケレドモ、此會場ヲ整理スル必  
要ガアリマスカラ、發言ノ場合ニハ委  
員長ノ承諾ヲ得ルヤウニ願ヒマス

○川崎委員 是ハ失禮シマシタ

○山崎政府委員 只今川崎君ノ御述ニ  
ナリマシタコトハ、全ク其通りノ考ヲ  
持ッテ居ルノデアリマス

○川崎委員 成タケ私ハサウ願ヒタイ  
ト思ヒマスガ、ソレデ此古墨蹟ノ方カ  
ラ伺ヒタイト思ヒマスガ、古墨蹟ノ方  
デ從來國寶ニナッタモノデ、私ガ最前御  
願ヲ致シマシタ何ガ出テ來ルト分リマ  
スガ、今直グニハ一寸分リ惡イノデス  
カラ、便宜上伺ヒマスガ古墨蹟ト云ッテ  
モ、マア聖武帝以來位ナ所デナクチャナ  
ス、ソレカラ其後ノモノデ國寶ニナッテ  
居ルモノモゴザイマスガ、所謂此日本  
的ノモノト云ヘバ、弘法大師トカ或ハ  
「イロハ」ナント云フモノハ日本固有ノ  
モノデスカラ、貫之トカ降ッテ或ハ俊成  
定家ト言ッタイウナモノニ這入ッテ來ル  
デセウ、ソレカラズット此方ヘ來レバ、  
青蓮院、尊圓、尊道ナント云ッタイウナ  
所ニ這入ッテ來ルデアリマセウガ、サウ  
云フモノデ、今迄國寶ニナッタモノ、ソ  
レカラ將來國寶ニスル必要アルモノ、  
例ヘバ貫之ノ如キ、伊達家ノ持ッテ居  
タ小倉色紙、ア、云フヤウナモノハ能ク  
分ル、ソレカラ紀州家ノ賣出シニ出タ定  
家ノヤウナモノ、是モ矢張色紙デアリ

マスガ、サウ云フモノデ、明ニナッテ居  
ル、眞蹟デ疑ナイ、サウ云フヤウナモ  
ノハ色々御銓衡ニナルノデアリマセウ  
ガ、サウ云フモノハ矢張國寶ノ種類ノ  
中ニ這入ルモノデハナイカト思ヒマス  
ガ、サウ云ッタイウナモノ迄モ御考ニナ  
ッテ居ルデアリマセウカ、サウ云フ程  
度ノ所ヲ……

○荻野文部省囑託 ソレデハ申上ゲマ  
スガ、只今御質問ノハ其順序デ參ッテ居  
リマスノデ、例ヘバ聖武天皇以後ノ  
御歷代ノ御宸翰類デ、確カナ御宸翰ハ  
聖武天皇ヲ始トシテ後宇多天皇、後  
醍醐天皇、其他數々、徳川時代ノ光格天  
皇様迄モズット國寶ニ指定セラレテ居  
リマス、尙巨勢卿ノ筆蹟ノ如キモ矢張  
這入ル、ソレカラ各宗ノ開山ノ高德ノ書  
カレマシタモノ、例ヘバ永源寺派寂室  
元光デアルトカ、或ハ大覺禪師デア  
ルカ、大燈國師デアルトカ云フヤウナ  
方々ノハ殆ド皆國寶ニナッテ居リマス、  
ソレカラ只今御舉ゲニナリマシタヤウ  
ナ歌物、若クハ假名物デ墨蹟モ確ナモ  
ノハ指定ヲスル考デアリマス、今御舉ゲ  
ニナリマシタヤウナモノモ私共ハ大低  
聞及ンデ居リマス、又御承知ノ松平伯  
爵家ノ佐理卿ノ手紙ノ如キモ、矢張國  
寶ニ指定スベキモノダト思ッテ居リマ  
ス

○川崎委員 ソコデ一寸古墨蹟ノコト  
ヲ伺ヒマシタ序ニ伺ヒマスノデアリマ  
スガ、是ハ關聯シテ伺フベキモノダト  
思ヒマス、是ハ山崎君カラ御答願ヒタ  
イト思ヒマスガ、何方デモ結構デアリ  
マス、私ハ眞蹟デアレバ、美術ノ模範ト  
シテ眞蹟デアレバ國寶ト云ヘバ總テ古  
イモノト云フ觀念ニ囚ヘラレズニ、矢  
張眞蹟デアッテ美術ノ模範トスルニ  
足ルモノデアレバ、近イ所ノモノデ  
モ矢張國寶ニスル必要ガアル、斯ウ  
云フ風ニ思ヒマス、應舉ノヤウナモ  
ノハ、最近寛政カラ明和ニ掛ケテノ  
モノデアリマスガ、應舉ノモノデモ四  
五點ハ國寶ニナッテ居ルモノモアルト  
思ヒマス、應舉ノモノガナッテ居レバ、  
少クトモ雅邦ノヤウナモノハ無論ナラ  
ナクチャナラスモノデアアル、ソレデ美  
術ニハ新舊ヲ問フ必要ハナイ、矢張美  
術ノ模範ニナルモノナラバ、ソレヲ採  
ル方ガ宜イデハナイカ、國寶ト云ヘバ  
總テ古イモノデナケレバナラヌ、時代  
的ノモノデナケレバイカナイト云フヤ  
ウナ觀念ヲ除イテ、歴史ノ象徵トナリ、  
表徴トナルヤウナモノハ、是ハ別ノ觀  
方デアリマスガ、美術ト云フモノヲ見  
タ眼カラ見マスレバ、新舊ノ別ハナイ  
ト云フコトデ御探リニナルコトガ適當  
デハナイカ、斯ウ思フノデスガ、ドウデ  
ゴザイマセウカ、ドウ云フ風ニ御考ニ  
ナリマスカ

○山崎政府委員 川崎君ノ御意見ハ洵ニ御尤デアリマシテ、是迄指定ヲ致シテアリマスモノハ、大體川崎君ノ御見當ノヤウニ古イモノガ多クナッテ居リマス、併ナガラ御説ノ通り美術ノ模範トナルベキモノト云フ此嚴格ナル範圍ニ屬スルモノデアリマスレバ必シモ古イモノ、ミヲ探ルト云フ必要ハナカラウト思ヒマス、全ク川崎君ノ御意見ト同様ノ考ヲ持ッテ居リマス

○川崎委員 ソレカラ繪ノ方デ少シ伺ヒタイト思ヒマスガ、是モ其方カラ行キマス、モウ私ガ今ノ大體觀念ヲ御伺申上ゲルト、モウ殆ド何モ申上ゲル必要ハナクナッテヤウナ心持ガシマスガ、私ノ日本趣味ヲ取入レテ戴キタイ、新舊ノ區別ノナイコト、斯ウ云ッテヤウナコトヲ言ッテ來マス、矢張土佐派ノ如キ野家ノ如キ、琳派ノ如キ兎ニ角繪トシテ或意味ニ於テ日本ノ獨創ト言ッテラ少シ誤弊ガアリマスガ、日本デ生レテ——支那ノ繪畫カラ來テ日本デ生レテ日本のニ彩ラレタ、潤飾セラレタ、斯ウ云ッテヤウナモノ、中ノ優秀ナモノ、是ハ特ニ保護セラレテ行カナケレバナラス、サウシテ最モ優秀ナモノヲ御選ビニナル、斯ウ云フ風ニ行クコトガ適當デハナイカ、古イモノデ疑ハシイモノヲ御探リヲ願フヨリモ新シイモノデ時代ガ若クテモハッキリシタモノヲ國寶トスル、ソレデ行クコトガ適當デハナイカ、斯ウ云フ風ニ思フノデゴザイ

マスガ、其點ヲ……

○萩野文部省囑託 申上ゲマスガ、御趣意ノ通りニ事實ヤッテ居リマス、例ヘバ、應舉ノ如キハ只今御話ノ如ク傑作ノモノハモウ皆指定致シテ居リマス、例ヘバ讃岐ノ琴平神社ニ在リマスル大キナ襖デアリマス、ソレカラ但馬ノ大乘寺ニ在リマス、應舉寺ニ在リマス襖トカ、是ハ皆國寶ニ致シテ居リマスソレカラ昨年ニナリマシテカラ大雅堂ノ代表的作物ト致マシテ、高野ニ在リマス所ノ襖、黃蘗山ノ萬福寺ニ在リマス襖ノ如キハ、悉ク國寶ニ致シマシタ、新シイ所デハ、只今ノ所デハ應舉、大雅ト云フアタリ迄參ッテ居リマス、私共ノ考デハ、最近ニ於キマシテ例ヘバ三河ノ大慈寺ノ冷泉爲孝ノ襖ノ如キハ、當然國寶ニ指定スベキモノト心得テ居リマス、ソレデ範圍ヲ成ダケ廣ク時代ヲ成ダケ近ク持ッテ來マシテ、代表的作物ハ悉ク國寶トシテ保存スル、斯ウ云ウ考デアリマス、從テ只今ノ御話ノ如ク、土佐派ノ繪デモ狩野派ノ繪デモ、代表的作物ハ悉ク探ッテ然ルベキモノデアル、斯ウ考ヘテ居リマス、而シテ同時ニ又御承知デハゴザイマセウガ、唐、宋、元、明ノ繪畫ノ日本繪ニ影響ヲ及ボシテ居ルモノモアルヤウデゴザイマスカラ、サウ云フモノ、著シイモノモ入レルト云フ考デアリマス、古イ所カラ極ク最近ノ所迄行クコトガ然ルベキデアラウ、斯ウ云フ考デアリマス

○川崎委員 洵ニ御説明ヲ承ッテ満足致シマシタ、唯茲ニ伺ヒタイノハ、繪ヲ見、古墨蹟ヲ見ルノニモ矢張見方ガアツテ、茶趣味カラ見ルノト、形カラ見ルノト、標準ガ大分違ッテ來ル、主トシテ古墨蹟ニ屬スルモノ、古畫ニ屬スルモノ、茶趣味ニ屬スルモノガ多イ、今日日本ノ繪畫ガ斯ノ如ク保存セラレテ、割合ニ沁モナクテ色モ綺麗ダト云フノハ、最近支那邊カラ來タモノヲ見マシテモ、日本ノ繪畫ノ綺麗ナノガ遺ッテ居ル、ソレハ茶趣味ノ御蔭デアル、若シ足利義政以後日本ノ茶道ト云フモノガ無カッタナラバ、矢張繪畫ノ如キモノハ隨分色ノ黒イ粗末ナ汚レタモノガ出テ來ルノデハナカッタカ、私ハ支那ノ繪畫ヲ見テサウ云フ感ヲ起シタノデアリマス、茶趣味ノ日本ノ繪畫ニ及ボシタル影響、ソレカラ彫刻トカ或ハ陶磁器カト云フモノニ及ボシタル影響ト云フモノハ極メテ大デアルト思ヒマス、ソコデ茶趣味ノ方カラ來ル見方ガ所謂ヒネリ家ニ屬スル見方デ、少シ違ッタ見方ヲスルノデアリマスガ、ドウシテモ斯ウ云ウ國寶トカ何トカ云フモノヲ指定スルニ當ッテハ、矢張茶趣味ニ屬スルモノヲ取入レナケレバナラスモノト思フ、サウスレバ矢張茶ノ方デハ利休デアルトカ、遠州デアルトカ、宗旦デアルトカ、斯ウ云フモノデ、古墨蹟トシテ遺スノガ、歴史ノ證據トシテ遺スノカ知レマセヌガ、此尺牘ノ如キモノハ澤山アリマ

ス、又歌物ノヤウナモノモ澤山アル、是ハ國寶トシテノ價值トシテ遺スモノカ、歴史ヲ名トシテ遺スモノカ、サウ云フモノデ著シイモノハ御遺シ下サルノガ宜シイト思ヒマスガ、是モ一ツ御考ヲ願ヒタイ、ソレカラ陶磁器ノ方ハドウナッテ居ルノデセウカ……

○山崎政府委員 宜シウゴザイマス  
○川崎委員 陶磁器ノ方ヲ伺ヒマスガ、私ハ陶磁器ニ付テ今ノ一遍上人ノ如キ感ジノスルモノガ澤山アル、瀬戸ノ藤四郎ノ作ノ高麗犬ナドハ私共カラ見マシテ美術ノ模範トナルベキモノカ疑ハシイヤウナ感ジガスルノデアリマス、サウ云フモノヲ一點舉ゲテ非難スルノデハアリマセヌガ、從來ノ國寶ノ中陶磁器ニ屬スルモノデハ隨分濫選擇ガアル、繪畫ノ方ハ幾ラカ知識ガ普及セラレテ、此弊ガ少イノデアルガ、陶磁器ニ至ッテハ殊ニヒドイノデハナイカト云フ感ジガスル、ソコデ陶磁器ヲ選擇スル標準ヲ何所ニ置クカ、人物ヲ中心ニシテ、其人物中心ノ作品カラ行クカ、ソレカラ窯ヲ中心トスルモノカラ行クカ、サウ云フ風ナ行方ガアルト思フ、所デ人物中心ト云フ方カラ行クト、日本ノ陶磁器ノ中デ、私共日本の美術トシテ遺サナクテハナラスモノダト思ヒマスノハ、言フ迄モナク光悦ノ如キ作品ト思フ、光悦ガ今日迄美術界ニ貢獻シタコトハ頗ル甚大デアル、是ハ所謂茶趣味ノ方カラ言ヘバモウ本

當ニ蘊奥ニ入ッテ居ルト言ッテ宜カラウ  
ト思フ、光悦ノ前ニ光悦ナシト言ッテモ  
宜イ位ト私共ハ思ウテ居リマス、光悦  
ノ如キ作品ハ重ニ茶趣味ノモノデ、茶  
碗トカ何トカ云フモノニ限ラレテ居リ  
マスガ、帝室博物館ノ一部ニモ光悦ノ  
茶碗ガアリマス、是ハ洵ニ結構ナモノ  
デア、斯ウ云フモノハ偶ニ光悦ノ茶  
碗トシテ出マス、價ガ數萬金デア  
ガ、時代デモ分ッテ居ルモノ、光悦トシ  
テ分ッテ居ルヤウナモノハ、是ハドウシ  
テモ國寶ニシテ戴カナケレバナラヌモ  
ノデハナイカ、從來陶磁器ヲ選擇スル  
ニ、支那カブレノ影響ガアリマシテ、青  
磁ト言ヘバ何デモ良イモノダト思ッテ  
青磁ニ對シテハ國寶モ大分アリマス、  
尤モ硃青磁ヲ國寶ニスルナラバ外ニ日  
本ノモノデ國寶ニシナケレバナラヌモ  
ノガ澤山アル、今申ス光悦ノ如キ、或ハ  
京派ノ仁清ノ如キ、乾山ノ如キ、人物中  
心デ見テ居リマスモノハ、是モ國寶ニ  
シナケレバナラヌモノデア、又柿右  
衛門ノ如キモ、其一部ニ這入ルデアラ  
ウト思ヒマス、斯ウ云フヤウナ方面ノ  
人物中心デ、日本ノ陶工トシテ從來珍  
ラシイ人、瀬戸様デ言ヘバ、藤四郎ノ如  
キハ問題デアリマスガ、藤四郎ハ又疑  
ガアリマシテ、ドウモ藤四郎藤四郎ト  
言ッテ藤四郎デナイヤウナモノガ澤山  
アリマス、ガ光悦以後ニ行キマス、ハ  
ツキリシテ居ル、斯ウ言ッテヤウナモノ  
ニ付キマシテハ、十分御研究下サレテ

居ルト思ヒマスルガ、支那カブレヲシ  
ナイデ一ツ其方ノ選擇ニ御配慮ヲ願ッ  
テ、日本デ作ラレタモノデアルト云フモ  
ノヲ遺シタイト私ハ思フノデアリマ  
ス、ソレニ對シテ若シ御意見デモゴザ  
イマスレバ伺ッテ見タイト思ヒマス  
○荻野文部省囑託 只今ノ御説ノ通り  
ナノデゴザイマス、光悦、乾山、仁清ノ  
如キハ代表的作物ヲ必ズ遺サナケレバ  
ナラヌト思ウテ居リマス、是ハ將來指  
定スル考デア、又モウ一方御話ノ通  
リ、窯ニ付テモ同様考ヘテ居リマス、工  
藝史ノ材料トシテ、各地ニ起ッタ窯ノ代  
表的作物ヲ遺スト云フコトハ、是ハ一  
方歴史ノ證據カラモ必要ナコトデア  
ル、サウ考ヘテ居リマス、御説ノ通り只  
今迄ハ專ラ青磁ノヤウナモノニ重キヲ  
置イテ居リマスガ、將來ハ只今申シタ  
ヤウナ繪畫迄モ同様ナ歩調ヲ取ッテ新  
ラシイ所迄及ビ、又其範モ擴メテ行カ  
ウト云フ考ヲ持ッテ居リマス、其點カラ  
モ今度ノ法律ノ改正ヲ私共専門ノ方カ  
ラモ要求スル譯ナノデアリマス

○川崎委員 洵ニ満足ヲ致シマス、私  
窯ノ方ノコトモ一寸伺ッテ見タイト思ッ  
テ居リマシタケレドモ、御説明モゴザ  
イマシテ結構デスガ、窯トシテハ伊賀  
トカ、信樂トカ、古イ所デハ瀬戸物、ソ  
レカラ備前ト云フヤウナモノガアリマ  
ス、私自身デ著書ヲ致シマシテ、或ハ御  
覽下サレテ居ルカトモ思ヒマスガ、私  
ハ日本陶器ノ中デ、伊賀及信樂、備前ト

言ッテヤウナモノハ陶器趣味ノ中デ、日  
本趣味ヲ獨創的ニ描キ出シテ居ルモノ  
ト考ヘテ居リマス、ドウシテモ陶器デ  
モ繪畫デモ無論サウデスガ、支那ノ影  
響ヲ受ケヌモノハゴザイマセヌシ、朝  
鮮ノ影響ヲ受ケヌモノハゴザイマセヌ  
ガ、大抵色ナドハ模倣ガ多クテ、支那ノ  
模倣ニシテ至ラザルハナシ、朝鮮ノ模  
倣ニシテ至ラザルハナシ、日本ノ趣味  
ヲ代表シテ、日本ヨリ外ニナイト云フ  
ヤウナ行キ方ヲシテ居ルモノハ、伊賀  
トカ、備前トカ、信樂ト云フモノデナケ  
レバナラヌト思ヒマス、御承知ノ筈ヲ  
使ッテ居ルトカ云フモノハ、到底西洋陶  
器ニハナイ、東洋ノ陶器デモ、強イ筈ヲ  
使ッテ居ルモノハ、伊賀、備前ト言ッテモ  
ノヲ除イテハナイ、朝鮮ニハ無論アレ  
ダケノ筈ハナイ、轆轤ノ切レ目ニ致シ  
マシテモ、矢張獨創ノモノデア、斯ウ  
云フモノハ、日本カラ進ンデスウ云フ  
立派ナモノガアルノダト言ッテ、世界ニ  
押出シタイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデ  
アリマスカラ、備前ニ致シマシテモ、伊  
賀、信樂ニ致シマシテモ、造ッタ人ノ名  
前ハ分ラヌ、人物中心デハナイ、窯中心  
デ行カナケレバナラヌ、窯中心デ行ッ  
テ、誰ガ見マシテモ小首ヲ傾ケナケレ  
バナラヌ物ガアルト思ヒマス、斯ウ云  
フ物ハ、マダ今日マデ國寶ニナッテ居ル  
モノガ少イ、今ノ支那カブレノ影響カ  
ラ來テ居リマスカラ、是ハ今ノ御話ノ  
通り一ツ御考ヲ願ヒタイト思ヒマス、

ソコデ最後ニ、是ハ次官ニ御願致スノ  
ガ適當ト思ヒマスシ、又大臣ニ伺ッテ、  
御協議ノ上デモ宜シウゴザイマスガ、  
私ハ國寶ヲ指定スルニ當ッテノ選擇ヲ  
ドウスルカト云フコトニ付テノ選ビ  
方、是ハモウ荻野サンノヤウナ、總テノ  
方面ニ堪能ナ方ハ結構デアリマスガ、  
矢張色々ノ人ノ眼デ見ルコトガ適當ナ  
ノデア、是ハ好事家トシテモ、専門  
家ノ斯道ニ明ルイ人ガアルノデアリマ  
スカラ、サウ云ッテヤウナ人ノ名前ヲ言  
フト是ハ變デアリマスケレドモ、先程  
モ申上ゲマシタ益田孝トカ、原富太郎  
トカ云フ人ハ、繪畫ノ方面ナドニ明ル  
イ、ソレカラ陶磁器ニ付テハ、是ハ色合  
デスガ、大河内正敏君ノ如キハ、是ハ其  
方面ニ大變明ルイ、色合ガ分ルカラト  
言ッテ總テノ事ガ分ル譯デハアリマセ  
ヌケレドモ、其方ノ専門ノ人ガアルノ  
デアリマス、是ハ博物館アタリニ居ッ  
テ、陶器ノ主任ヲシテ居ラレル人ナド  
ヨリモ遙ニ見識ヲ持ッテ居ラレル、サウ  
云フ人ガ矢張相談相手ニナルコトガ必  
要デハナイカト私ハ思フ、是ハ大シタ  
費用モ要ラナイデ出來ル、立派ナ地位  
ノアル、見識ノ有ル人ヲ網羅シテ、相談  
相手ニセラレ、サウシテ決メラレルト  
云フコトガ宜クハナイカト思フ、是ハ  
直グニ御返答ガ出來ナケレバ、文部大  
臣ト御相談ヲ下サイマシテ、本案ノ通  
過ノ後デ結構デアリマスカラ、御考ヲ  
聽カシテ戴キタイ

○山崎政府委員 只今川崎君ノ御希望ハ、洵ニ御尤デアリマス、今回此法律ガ通過致シマスレバ、從來ノ古社寺保存委員會ハ組織ヲ改メルコトニ相成ルノデアリマス、其場合十分考慮ニ加ヘマスコトハ無論ノコトデアリマスガ、尙正式ノ委員以外ニ於テモ、特殊ノ専門ノ方々ニハ、或ハ囑託デアルトカ、色々ノ名義ニ依テ、十分各方面ノ權威アル方々ノ御意見ヲ尊重シテ、參考ニスルコト云フ方針ヲ取ツテ居ル譯デアリマス、此點ハ大臣ト御協議申上ゲル迄モナク申上ゲテ宜シト思ヒマス

○川崎委員 私ハモウ大體是デ質問ガ終リマシタ

○山下委員長 其他ニ御質問ハゴザイマセヌカ

○村松委員 私ハ一二點伺ツテ置キタイト思ヒマス、今回ノ此保存法案ハ、此説明ニモアリマス通り、我國ノ國寶ニ値シ、若クハ之ニ準ズベキ古美術等ノ海外ヘノ流出ヲ防グト云フコトモ主ナル目的デアラウト思ヒマス、ソレニ付キマシテ、從來維新以後海外ニ出マシタ所ノ國寶ニ準ズベキ、若クハ國寶ニ値スベキモノガ數アルコトハ言フマデモナイ、又ソレ等ノ物ガ凡ソ何處ニ行ッテ居ルカト云フコトモ、無論分ッテ居ル筈デアリマスガ、其中ニハ再ビ日本ニ取返ス機會ノナイモノモアリマセウ、或ハ個人所有ノ中ニハ、再ビ取返ス機會ノアルモノモアリマス、例ヘバ先年

兒島島水氏ガ外國カラ澤山買物ヲシテ來タト云フコトモアルノデアリマス、斯ウ云フ場合ニ於キマシテ、政府ハ或ハ國費ヲ以テ之ヲ買戻スト云フヤウナコトニ付テ、何方方針ヲ御立テニナツテ居リマスカ、之ヲ一ツ伺ヒタイト思ヒマス

○山崎政府委員 從來國寶ノ資格アル物デ海外ニ輸出サレテ居リマスモノハ御想像ノ通り可ナリノ數ニ達シテ居ルノデアリマス、其中デ所在ノ明瞭ニナツテ居ル物モ少カラズアルノデアリマスガ、多クハ外國ニ於ケル博物館其他ニ所藏サレテ居ル者デアアルノデアリマス、又外國ノ個人ノ所有ニナツテ居ルモノモ無論アルノデアリマスガ、之ヲ再ビ日本ノ手ニ取返スト云フコトハ、御同様洵ニ希望致スコトデアアリマスケレドモ實際問題ト致シマシテハ、中簡單ニ參リ惡イト思ヒマス、別ニ政府トシテ國費ヲ以テ取返スト云フ程ノ考モ今日ハ持ツテ居リマセヌ、或ハ日本ノ富豪其他ノ手ニ依テ出來得ルモノハ取返スコトガ出來レバ洵ニ結構デアルト云フコトヲ希望致シテ居ル程度デアリマス

○村松委員 大體拜承致シマシタガ、無論御話ノ通り再ビ取戻スト云フ機會ハ少イト思ヒマスガ、又稀ニハ其機會ガナイコトハナイト云フコトガ今マデノ事例ニモアリマスガ、是ハ無論富豪等ガ買戻スト云フヤウナコトニナリマ

スレバ、勿論結構デハアリマスガ、又或ル場合ニハ個人デハ其處マデ手ガ届カナイト云フコトガアラウト思ヒマスカラ、斷エズ注意ヲシテ居リマスレバ、何等カノ機會ニ貴重ナル、サウ云フ國寶ニ値スベキ物ガ取返セル機會モアルト思ヒマスカラ、是ハ政府ニ於テモ相當ノ御考慮ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラモウ一ツ伺ツテ置キタイノハ、是ハ本案ニハ直接關係ハアリマセヌガ、併シ關聯ハ致シテ居リマスカラ伺ヒマスガ、ドウモ私共見マスルノニ、我國ニハ博物館ノ數ガ大變少イト思ヒマス、諸外國ニ於キマシテハ、小サナ地方ニ至ルマデ、大小夫レ々々ノ博物館ガ各種ノモノガアリマスガ、ソレガ日本ニハ少イト思ヒマス、最近ニ於テハ御大典ノ記念事業トシテ、官民協力デ大博物館ガ出來ルト云フコトデアリマス、是ハ洵ニ結構デアリマスガ、私共考ヘルニ、各地方ニ於テモ出來得ル限リ其地方ノ力ニ應ジ、其大小ニ應ジテ博物館ヲ造ルト云フコトハ、非常ニ是ハ國民教育ノ上カラ必要ナコトデアラウト思ヒマス、是ヲ一ヶ所ニ博物館ヲ造ルノデモ中々經費ノ上カラ容易ナコトデアナイノデアリマシテ、是ハ單ニ地方ノ力ダケデハ出來マイト思ヒマス、左リ

ヲ致シテ、之ヲ獎勵シ、指導スルト云フコトニナレバ、地方ニ於テモ夫レ々々其地方ニ於ケル特殊ノ博物館ヲ造ルコトガ出來ルノデアラウト思ヒマスガ、ソレ等ニ付テ政府ハ何等カ御考ニナツテ居リマスカ

○山崎政府委員 博物館ガ日本ニ於テ餘リ發達ヲ致シテ居リマセヌコトハ、村松君ノ仰セノ通りデアリマス、此點ハ單リ美術其他ノ關係ノミナラズ、社會教育ノ上カラ私共モ非常ニ遺憾ニ考ヘテ居ル點デアリマス、幸ヒ今回ハ村松君ノ御示シノ通りニ、官民協力一致ニ依テ御大典記念ノ大博物館ガ出來ルコトニナツテ居リマスガ、願クハ各地方ニ於テ、サウ急ニ増加スルト云フコトモ出來マスマイガ、何等カノ方法ニ依リマシテ、博物館事業ノ發達ヲ圖ルト云フコトハ、是ハ極メテ必要ナコトデアルト考ヘテ居リマス

○松尾委員 私ハ史蹟指定ノ中ニ含まレテ居ル建物、或ハ其史蹟指定ノ中ニ相當偉人大家ノ遺サレテ居ル建物、或ハ書籍其他ノ遺物ガアルノデアリマスガ、是等ノモノモ矢張今回ノ保存法ノ指定ヲ受ケル範圍ニ含まレルモノデアリマセウカ、之ヲ承リタイノデアリマス

○山崎政府委員 ソレハ含マレル譯ニナツテ居リマス

○松尾委員 ソレデハ尙御尋シタイノデアリマスガ、多クサウ云フ史蹟ノ指

定サレテ居ルヤウナ所ハ、貧弱ナ個人ノ所有、或ハ公共團體ノ所有ニナツテ居ルモノガ多イノデアリマス、此第十四條ヲ見マスルト、維持修理ハ神社又ハ寺院ノ所有ニ限ルモノ、ヤウニナツテ居ルノデアリマス、サウ致シマスト保存ノ指定ヲ受ケラレルコトニハナルノデアリマスガ、此十四條ニ依ル維持修理等ニ要スル補助金ヲ受ケル特典ガナイヤウニモ思ハレルノデアリマスガ、此點ハ如何デアリマスカ

○山崎政府委員 其點ハ甚ダ遺憾デアリマスガ、此個人ノ所有ノ建物等ニ付キマシテマデ、國庫ノ補助金ヲ支出スルト云フコトハ、經費其他ノ關係カラ申シマシテ困難ヲ感ジテ居リマス、御話ノ通り第十四條ニ於テハ、神社又ハ寺院ノ所有ダケニ付テ補助金ヲ交付スルト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、是ハドウモ已ムヲ得ナイカト思ヒマス

○松尾委員 此國寶保存法指定ノ趣旨、文書ノ中ニハ、第一頁ノ中程ニ「今ヤ聖代文運ノ振興ニ伴ヒ、是等史的記念物ノ價值愈顯レ、其ノ維持保存法益急ヲ告グルニ當リ」而シテ其次ノ頁ノ所ニ「祖先ノ美風ヲ繼承シ我が國ノ精華ヲ發揚スル所以」ト斯ウ云フ風ニ特ニ史的記念物ノ維持保存ト云フヤウナコトニモ餘程重キヲ置イテ、此本法ノ施行ヲセラレル譯デアリヤウニ承ルノデアリマスガ、斯ウ云フ折角保存ノ方

法ガ決メラレテ、サウシテ史的記念物ニ對シテモ、餘程重キヲ置イテ居ラレルヤウデアリマスガ、單リ神社及寺院ノミニ斯ウ云フ特典ヲ置クノデナク、史的記念物トシテ國家ガ之ヲ維持保存スルノ必要ナルコトヲ保存會ガ認メル以上ハ、當然矢張是ダケノ恩惠ヲ受ケシメルベキモノデハナイカト存ズルノデアリマスガ、私頂戴シマシタ趣意書カラ見マシテモ、少シ矛盾スルヤウニ思フコトガアルノデアリマス、斯ウ云フコトハ此第十四條ヲ、モウ少シ範圍ヲ廣クシテ戴クコトハ出來ナイモノデアリマセウカ、尙重ネテ御尋致シマ

○山崎政府委員 史蹟保存法指定ヲサレマシタ分ニ付キマシテハ、史蹟保存トシテノ補助ハ、是ハ其方ニ出ル所ハ別ニナツテ居ルノデ、國寶保存ノ方ノハ從來ノ沿革モアリマスルシ、神社佛閣ノ建物ニ付キマシテハ、神社佛閣ノ建物ヲ保存スルト云フコトガ、先ヅ眼目ニ相成ツテ居リマスヤウナ關係カラ、第十四條ガ生レタ譯アリマシテ、折角ノ御希望デハアリマスガ、此點ハ政府トシマシテハ矢張此方針參ルノガ適當デアルト考ヘテ居リマス

○椎尾委員 保護建造物ノ先程承リマシタ年々殖エテ居リマス新シイモノハ、是ハ中ニハズット古イ物デ發見サレテ加ヘラレルモノモアルト思ヒマスケレドモ、年數ガ到達スルト云フコトデ、

段々殖エテ行クト云フノガ主デアリマセウカ、矢張模範的ノ各建造物トシテ殖エテ行クノデアリマスカ、大體一寸承リマス

○山崎政府委員 大體ハ非常ニ鄭重ナ調査ヲ遂ゲマシテ指定ヲ致シマスノデ、年々殖エテ參リマスノハ、調査ノ進行ニ伴ヒマシテ若干ヅ、殖エテ行ク、斯ウ云フコトニナツテ居リマス

○椎尾委員 ソレハ矢張大體三百年前ト云フノハ、今後ノ建造物ニ付テモソレデヤリマスカ

○關野文部省囑託 從來ノ建造物ノ指定ノ大體ノ方針デアリマスガ、ソレヲ申上ゲテ置キマス、古社寺保存法制定ノ初ニハ、兎ニ角三百年以前ト云フコトヲ先ヅ目的ニシテ、サウシテ各時代ニ於ケル最も代表的ノ物ヲ次第二指定シテ參リマシタ、ソレカラ其後ニナリマシテカラ、又時代ヲ少シ下ゲマシテ、徳川時代ノ物デモ優秀ノモノハ追追ト指定スルト云フ方針ヲ探ツテ參リマシタ、ソレモ大體ニ徳川時代ノ初期デアリマスガ、ソレハ斯ウ云フ譯デゴザイマス、元龜天正ノ戰國時代ノ古社寺ノ建造物ガ隨分兵燹ニ羅ツタリ、又ハ適當ノ保護ノ途ヲ得ズニ破壊サレタリ、荒廢シテ修繕ガ出來ナカッタリ、ソレガ爲ニ從來ノ建造物ガ隨分亡滅致シマシタ、所ガ慶長カラ寛永以後ニナリマシテ、其後太平ガ殆ド三百年モ續キマシテ、殆ド兵燹ニ罹ルト云フコトハ、

ソレハ全クアリマセヌ、唯時々火災ノ爲ニ燒ケルヤウナコトガゴザイマシタケレドモ、此様ナ災ガ割合ニ少ナカッタ爲ニ三百年以後ノ建築ハ非常ニ數ガ多クテ、三百年以前ノ建築ハ割合ニ數ガ少ナイ、ソレデスカラシテ先ヅ三百年前ノ物ヲ大體指定スル方針ヲ探リマシテ、次ニ三百年以後デモ矢張時代ノ早イ物ノ方ガ少ナイ、遅レルニ隨テ多ク殘ツテ居リマスカラ、先ヅ早イモノカラ先ニ指定シテ參リマシタ、サウ云フヤウナ方針ヲ探ツテ參リマシタノデ、段々ト調査ヲ進メルニ從テ次第二保護建造物ノ數ハ増シテ來マシタケレドモ、近頃少シ數ガ少ナクナツテ居リマス、ソレハ從來ノ方針デ、大體徳川時代ノ初期以前ノモノデスト云フト、凡ソノ調査ガ濟ミマシタ、サウ云フモノヲ指定シマシタノデ、是カラハ三百年以後徳川末期、場合ニ依リマシテハモウ少シ範圍ヲ擴メマシテ、明治時代ニ至ルマデノ時代々々ヲ代表スル優秀ナモノヲ指定シテ行キタイト云フ考ヲ持ツテ居ルノデゴザイマス、ソレデアリマスカラ、將來ハマダ數ガズット殖エルコトニナリマシテ、大體ノ考デハ、マダ五百位棟數ヲ増スカト想像シテ居リマス

○山下委員長 ソレデハ本日ハ此程度ニ打切りマシテ、次回ハ明後日開キマスカラ、ドウゾ御出席ヲ御願致シマス、今日ハ是ニテ散會致シマス  
午前十一時五十二分散會

昭和四年二月二十一日印刷

昭和四年二月二十二日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社